

# CASBEE<sup>®</sup>さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)浅間町二丁目計画新築工事	階数	地上7F
建設地	埼玉県さいたま市大宮区浅間町2丁目227番	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域	平均居住人員	200人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2023年2月2日
敷地面積	1,755 m <sup>2</sup>	作成者	有限会社エイツカ企画設計
建築面積	760 m <sup>2</sup>	確認日	2023年2月2日
延床面積	3,884 m <sup>2</sup>	確認者	有限会社エイツカ企画設計



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 85%

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 85%

④ 上記+: 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 省エネ性能等、隣接地及び周辺地域の環境に配慮した計画とする。	<b>その他</b> 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 居室の昼光率を2.0%以上確保し、室内環境への配慮をしている。	<b>Q2 サービス性能</b> 品確法の劣化等級3を取得する
<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 植栽計画や建物の高さ、形状、色彩等において、標準的な配慮を行っている。 敷地内緑化に務める	<b>LR3 敷地外環境</b> 光害の抑制に配慮をしている。
<b>LR1 エネルギー</b> 断熱等性能等級4を確保する 複層ガラスを採用する LED照明の採用	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 躯体と仕上材を容易に分別できるように配慮している。 断熱材はノンフロンを使用している。 節水器具を採用している

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)浅間町二丁目計画新築工事**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		基本設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.2</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.6</b>	0.50	
1 開口部遮音性能	専用部:T-2	<b>3.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	<b>3.0</b>	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	<b>3.0</b>	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	<b>3.0</b>	0.20	
1.3 吸音		-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	<b>4.0</b>	1.00	
1 室温		<b>3.0</b>	0.63	-	-	
2 外皮性能	断熱等性能等級4	<b>3.0</b>	0.38	<b>4.0</b>	1.00	
3 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	-	-	-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.3</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.5</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30	<b>3.4</b>	0.50	
1 昼光率	専用部:2.0%以上	<b>1.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50	
2 方位別開口		-	-	<b>1.0</b>	0.30	
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20	
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50	
1 昼光制御	カーテン・庇によりグレアを制御している	<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質	共用部・専用部ともに全体的にF☆☆☆☆を使用する	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
2 自然換気性能		-	-	<b>3.0</b>	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40	<b>3.2</b>	1.00	<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	各住戸において100Mbitクラスのブロードバンドが利用可能	-	-	<b>4.0</b>	1.00	
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	<b>3.0</b>	0.50	
2 リフレッシュスペース		<b>3.0</b>	-	-	-	
3 内装計画		<b>1.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50	
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.30	-	-	<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.7</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	品確法の劣化等級3を取得する	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニルクロスの使用	<b>4.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:VP(B)、 汚水排水管:VP(B)、 冷却水管:VP管(B)、 Eは不使用	<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>2.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.25	-	-	

	4	機械・配管支持方法	3.0	0.25	-	-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.25	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			-	-	<b>2.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり		-	-	<b>3.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ		-	-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			-	-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.3</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	外皮等級4	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
2	自然エネルギー利用		<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.98	<b>3.2</b>	0.50	-	-	<b>3.2</b>
4	効率的運用		<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節湯の水栓、節水型便器を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:ビニル床材(エコマーク)	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	GL工法により躯体と仕上材が分別可能	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=3以下の発泡剤を用いた断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率85%を達成	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明がなく、光害対策がドラインのチェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	